

自己評価結果公表シート（平成31年度・令和元年度）

東豊中幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりを大切に、遊びと生活を通して子どもたちの「積極的に生きる力」「自律性」を育てる。
- ・遊びや生活の中で、自分で考えて決める力を育てる。
- ・思いやりをもって人と関わる力を育てる。
- ・自分を大切に思う心を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園内研修だけではなく、公開保育のシステムなどを活用し外部からのアドバイス、情報などを取り入れ、保育の見直しや職員の資質向上に努める。
- ・一人ひとりが掲げている保育目標を共有し、意見交換しながら実践に生かすことができるよう、進める。
- ・職員間での報告・連絡・相談を大切にし、職員全員で共通理解ができるよう努める。
- ・地域や保護者、子どもに関わる情報の把握に努め、それらを保育に生かす視点を育てる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育の資向上	ECEQ型公開保育を実施し、外部の視点を導入することによって、自園の保育の見直しを図り、保育内容及び職員ひとり一人の資質向上につなげていくことができるよう取り組んでいる。 保育参観を行い、職員間で意見を出し合い、自分の保育を振り返ることで改善点を見つけ、よりよい保育ができるよう努めている。 園内研修などで、職員同士が保育観や子どもの育ちなどの意見交換やコミュニケーションを図る機会を多く持つことを努め、お互いの学びを深めあい、チーム力を高めていくように進めている。 外部研修にも参加し、専門的な知識や他園所の保育を学んでいる。
安心して過ごせる環境づくり	遊具や園内外の点検を毎日行い、安全を確認している。また子どもたちが落ち着いて過ごすことができるよう、保育室内、その他施設の環境も子どもたちの様子に応じて整え、見守る体制を整えている。 保育補助として、フリー教諭20名、補助職員11名の体制をとっており、子ども一人ひとりの成長に合わせた援助や見守りの充実を図っている。
遊びの充実	室内、戸外共に遊びの中から自律的な学びに繋がる経験や体験ができるものを職員間で話し合いを重ね、工夫しながら環境に取り入れている。 ルールのある遊びを楽しみながら、社会性や協調性を身につけ、また自ら考える力を養い、遊びを繰り返し試せるよう、職員同士で研修や話し合いを重ね環境を整えている。 (集団遊び・カードゲーム・ボードゲーム・水つなぎ遊び) 保育環境評価スケール(EGERS)を参考に子どもがより生活や遊びが充実していくことができるようにしている。

子育て支援	<p>主に保護者対象として育児ストレスの軽減や子どもたちの健やかな育ちを援助するために心理専門家によるカウンセリングを実施している。</p> <p>子育て相談員や幼児教育アドバイザーなどの資格を持つ職員を配置して気軽に話ができる環境を整えている。地域の親子が参加できる「りんごらんど」「はぐはぐりずむ」を年間通して定期的に開催している。</p> <p>2歳児クラス「にこちゃんルーム」を開室している。</p> <p>働く保護者の支援と卒園児との交流を目的に早朝保育の「おはようくらす」・放課後預かり保育の「りんごぐみ」卒園児対象預かり保育の「おかえりクラス」を実施している。</p>
保護者理解	<p>保護者がクラスの子どもの育ちや保育者の関わり方を理解できるように保育参加をする機会を設けている。(いちごせんせい)</p> <p>また父親保護者に行事に参加し、手伝いをしてもらいながら様子を知ることができる機会を設けている。(りんごパパ)</p> <p>保護者が子どもの日々の姿や園での様子を知ることができるよう、ホームページに保育の様子を掲載したり、保育中に子どもたちと一緒に遊ぶ時間を設けたりしている。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

ECEQ型公開保育の活用では、担任が自分のクラスの保育や子どもの姿などを客観的な視点で捉えていきながら課題を見出す経験や、他園の保育者からの助言や意見をもらうなど、保育者一人ひとりが多くの貴重な経験や学びを深めることができた。それらを基に保育を実践していく事で、今まで以上に向上心を持ちながら、保育に携わることができるようになったと実感している。

また、園内研修や職員会議においても、コミュニケーションや意見交換の充実を意識しながら行うことで、それぞれが見識をひろげながら保育を実践し、自信につなげていく事が出来た。

5. 今後取り組むべき課題

◇保育者の質の向上

園内や外部の研修にそれぞれが向上心をもって積極的に参加する中で、学びを自分だけに留めるのではなく、園や他の保育者に伝えていきながら、全体的な質向上に努めていくことができるようにする。

一人ひとりの子どもたちの姿や成長を大切にしながら、幼児理解を深め、よりよい保育を目指す。

◇園内研修の充実

ECEQ型公開保育の実践の経験を踏まえ園内の研修を充実させていきながら、一人ひとりが輝けるようなより良いチーム作りを進めていくことを目指す。

外部で受けた研修を報告し情報共有することで職員の知識を豊かにする。

◇情報共有の徹底

職員間のコミュニケーションの機会を大切にしていく。

日々の保育の打ち合わせや職員会議の中で職員全員が一人ひとりの子どもの様子をより把握し、個々の特性に合った援助をして進めていく事ができるようにする。

◇幼保小の連携を深める

連携していくことの重要性を感じ、引き続き他校園所との交流を充実させていくとともに、学びの連続性を踏まえて保育内容を検討し、小学校就学へスムーズに移行できるように取り組む。

◇子育て支援

未就園児の子どもたちや地域の方々との交流が生まれるよう、イベント内容の充実を図る。

6. 学校関係者の評価

職員一人ひとりが園の教育方針の理解に努め、子どもたちの育ちを捉え考えていながら保育の充実に向けて意欲的に取り組むことができた。保育者一人ひとりが向上心をもって保育をしていくためには、職員間の風通しのよい関係性が不可欠である。今後もそのより良い土壌を大切にしながら連携できるチーム作りにつなげていきたい。

また子育て支援関連では、初年度に担当者を配置することで、これまでの活動内容を振り返りながら見直しを図り改善点を検討できるように進めていくことができた。次年度以降も今後の展望を見据えていながら同様に取り組んでいきたい。今年取り組みを通して保育者の資質向上はもとより、園全体の質向上につなげることができたと評価している。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。